

大久保病院だより

No. 27
平成29年
12月6日

編集・発行 | 特定医療法人誠仁会 大久保病院 地域医療連携室 ● 明石市大久保町大窪2095-1 TEL078(935)2680 FAX078(935)2684

送迎バス時刻表

土曜日は、1～12便のみ運行。
日曜・祝日は運休。



平成29年4月17日(月)より、患者様のご通院に伴う負担を軽減するために、送迎バスの運行を開始いたしました。

大久保駅往復コース

便名	1	2	4	6	8	10	12	13	15	17	19
大久保病院 発	7:50	8:20	9:20	10:20	11:20	12:20	13:20	16:00	17:00	18:00	19:00
大久保駅	8:00	8:30	9:30	10:30	11:30	12:30	13:30	16:10	17:10	18:10	19:10
大久保病院 着	8:10	8:40	9:40	10:40	11:40	12:40	13:40	16:20	17:20	18:20	19:20

高丘方面周回コース

便名	3	5	7	9	11	14	16	18
大久保病院 発	8:50	9:50	10:50	11:50	12:50	16:30	17:30	18:30
県営第二住宅前バス停	8:52	9:52	10:52	11:52	12:52	16:32	17:32	18:32
高丘2丁目バス停	8:53	9:53	10:53	11:53	12:53	16:33	17:33	18:33
高丘東小前バス停	8:54	9:54	10:54	11:54	12:54	16:34	17:34	18:34
高丘1丁目バス停	8:55	9:55	10:55	11:55	12:55	16:35	17:35	18:35
高丘3丁目バス停	8:56	9:56	10:56	11:56	12:56	16:36	17:36	18:36
高丘5丁目南バス停	8:57	9:57	10:57	11:57	12:57	16:37	17:37	18:37
高丘西口バス停	8:58	9:58	10:58	11:58	12:58	16:38	17:38	18:38
山の下バス停	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	16:40	17:40	18:40
大久保病院 着	9:05	10:05	11:05	12:05	13:05	16:45	17:45	18:45

※交通事情により多少の遅れがある場合がございます。



【大久保駅前 乗降場所】
大久保駅北口
JAあかし本店(大久保)南側



※車椅子でのご乗車はできません。※乗車される方は、手を上げて合図をお願いします。

特定医療法人 誠仁会
大久保病院

〒674-0051 明石市大久保町大窪2095-1
tel. (078) 935-2563
<http://www.seiinkai.or.jp/okubo/index.html>



交通機関をご利用の方

- JR山陽本線「大久保」駅下車、北へ徒歩15分
- 「大久保」駅北口より神姫バス
②のりば 19「山手台」行き
③のりば 12「西神中央」駅、「上岩岡」、「五百蔵」行き「山手小学校前」バス停下車、東へ徒歩5分

車をご利用の方

- 第二神明道路「大久保IC」より、大久保方面へ約10分

健康まつりを開催しました



11月11日(土)、今年で23回目となる大久保北健康まつり(主催:大久保北コミュニティ・センター、後援:大久保病院)が開催されました。お天気にも恵まれ、会場のコミュニティ・センターには約330名の地域の皆様が訪れました。

健康まつりのスタートは、メディカルフィットネス研究所代表の太藻ゆみこ先生による記念講演。



太藻ゆみこ先生

「健康で長生き!! ~いつまでも元気で歩くために~」をテーマに、正しい姿勢や座り方立ち方、体幹の鍛え方などについて、実践を交えながら、楽しくわかりやすくご講演いただきました。

講演後には、各コーナーがスタート。毎年人気の動脈硬化測定・骨密度測定には、最



動脈硬化測定の抽選に多くの人が...

終時間まで抽選で当たった方・整理券を手に入れた方の測定が行われました。

体力測定やロコモ度テスト・肥満度、血圧、尿チェックのコーナーでは、結果に一喜一憂したり、熱心に質問したりする姿がみられました。

医療相談は、整形外科医2名と消化器内科医・腎臓内科医 各1名が担当し、相談内容によって専門の医師がアドバイスを行いました。

リラクゼーションコーナーでは、アロマオイルを使ってハンドマッサージが行われた他、介護相談コーナーや食事バランスを考えたレシピの紹介等、どのコーナーも多くの方々で賑わっていました。

半日間のイベントではありますが、健康まつりでの講演や測定、アドバイスが、参加者お一人おひとりの健康を見直すきっかけになればと思います。いつまでも自分らしく元気で歩くために。



開会のあいさつをする病院長



脊椎の手術に関する モニタリング機器 の紹介

手術室では日々、整形外科をはじめとする様々な手術が行われています。

その中でも、脊椎の手術では神経や神経の近くを触る為、どうしてもリスクの高い手術となってしまうのが一般的な病院施設の現状と言えます。

しかしながら、医療機器の技術進化に伴い神経モニタリングシステムやナビゲーションシステムなど、様々な機器の登場により手術の安全性が劇的に向上してきました。

当院では神経モニタリングシステムとナビゲーションシステムの双方を導入しており、機器を使用する際は専属のスタッフが操作している為、より安心か



つ安全に手術ができるようになりました。

神経モニタリングシステムとは神経の状態をリアルタイムにモニタリングできる装置で、手術中において神経に影響を与える可能性がある場合は特に有効な医療機器と言えます。

また、手術前と手術後の神経状態の比較もできる為非常に便利です。

ナビゲーションシステムとはCTで得られた骨の3Dデータと実際の手術での骨のデータをリンクさせて論理的に骨の中の状態を知る医療機器です。

これらの機器を使用し、患者様のニーズに応える医療を提供できるように取り組んでいます。

エイズ研修会を明石健康福祉事務所と 共同で開催しました



主な先進国では、新規感染者数が横這いもしくは減少傾向にある中で、日本は依然としてHIV感染者、AIDS患者ともに増加の一途をたどっています。

また、治療の進歩によりHIV感染症は「死の病」ではなく、コントロール可能な「慢性疾患」と考えられるようになり、感染者の高齢化に伴い、他の高齢者と同様に地域の医療機関や社会福祉施設へのニーズが高まってきているのが現状です。

医療機関職員、施設職員がAIDSに関する正しい知識を理解することにより、HIV感染症/AIDSに対し



て不安が軽減でき、適切なケア・感染防止が出来る目的にて、明石健康福祉事務所と大久保病院共同で、平

成29年8月5日(土)、明石生涯学習センター子午線ホールで研修会を開催しました。兵庫医科大学血液内科講師の日笠聡先生を迎え、明石管内の施設、病院より163名の参加のもと

1. HIV感染症/AIDSの現状と治療、HIV感染症とAIDSの区別、HIV感染症治療の現状
2. HIV感染症の院内感染対策、暴露事故後の防止方法

について講義頂きました。その中で先生は「HIV感染症/AIDSはもはや、(ほとんど)発病しない、死なない、感染しない、内服薬を継続するだけの疾患です。皆様のごとくに紹介される患者様に、糖尿病や高血圧などの合併症に対して、内服を継続していることと何ら変わりません」と話されました。研修後のアンケートでは、正しい知識を学べ、普段から行っている標準予防策を行えばよく、感染力も特別なものでない等の意見が聞かれ、HIV感染症/AIDSに関して正しい意識を持つことのできる研修会となりました。

Post introduction

部署紹介

栄養管理科



栄養管理科は管理栄養士が3名在籍しており、院内の栄養・食事に関する業務全般を担当しています。具体的には、食事提供や栄養管理、栄養指導・相談等です。

入院中の食事は『治療・安全』を第一に、患者様の病態にあわせたコントロール食となっています。他職種とも連携し、様々な制限がある中で『おいしく』『しっかり』食べていただけるよう日々努力しております。



また、食事療法が必要な患者様・家族の皆様への栄養指導・相談も積極的に行っています。『食べる』ことで、少しでも病気の治療や健康の維持にお役に立てればと考えています。

イベント紹介



秋祭りを開催しました

2階南病棟

当病棟は療養病棟であり、少しでも入院生活に癒しや憩いの時間を感じて頂けるように、定期的にレクリエーションを開催しています。季節にあったイベントを病棟スタッフが企画し、運営しています。

9月は少し遅れた「夏祭り」としマジックショーや法被を羽織ったのの写真撮影、おやつにかき氷を食べて頂きました。マジックショーは驚きあり、笑いありと、とても喜ばれ楽しんで頂きました。



老人保健施設研修を終えて

今年度、老人保健施設「ひらの」にて10名の看護師が「老人保健施設を知る」をキャッチフレーズに施設の役割や特徴、入所者の生活状況を知る研修を行いました。

1日間の実習ではありましたが成果発表の中で、「施設の特徴や体制、基準、環境などを知ることによって退院に向けて継続できることや、完結しておかなければならない事が理解できた」「施設に向けて継続でき

るように詳しいケアの情報提供をする必要があると実感した」「看護サマリーなどの紙面だけではなく、施設へ赴き指導内容の説明や実施を行うことも必要だと感じた」などの意見を聞くことができました。これらの意見を形にし、病院から施設へバトンタッチすることで、安心できる連携を看護師の役割として形作っていきたいと思います。